

経営比較分析表（令和3年度決算）

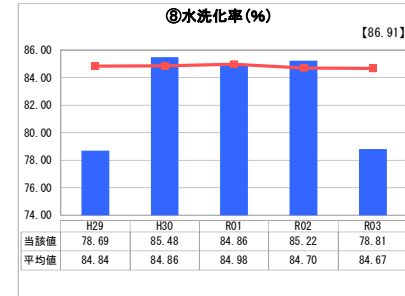
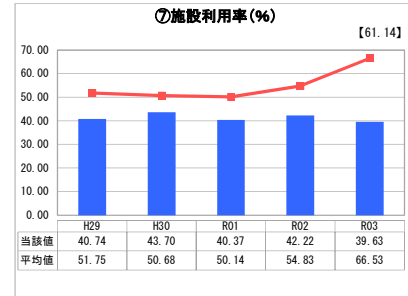
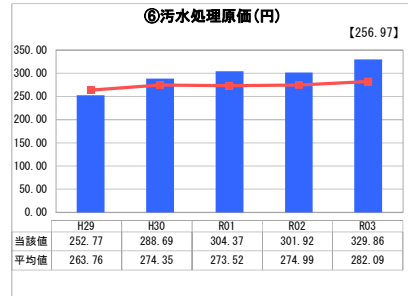
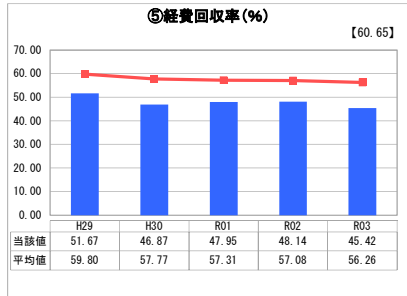
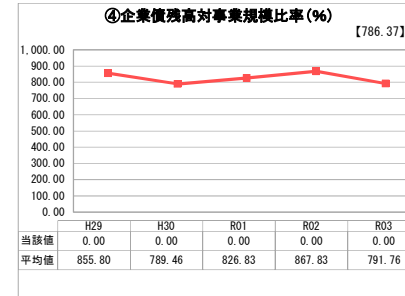
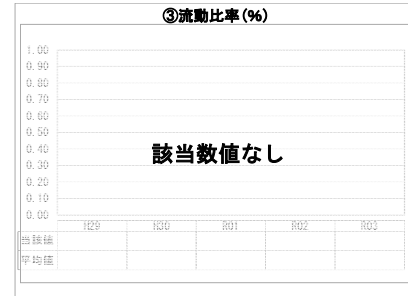
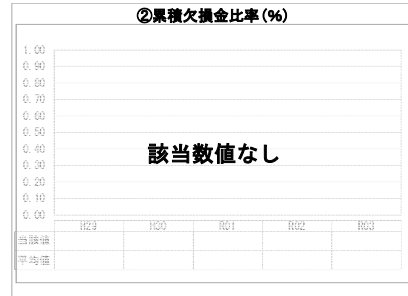
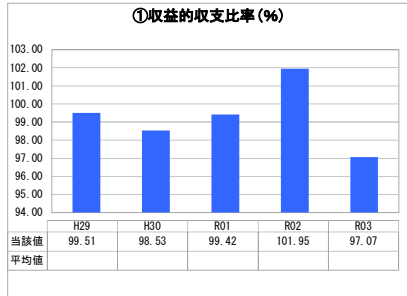
香川県 まんのう町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.66	100.01	3,039

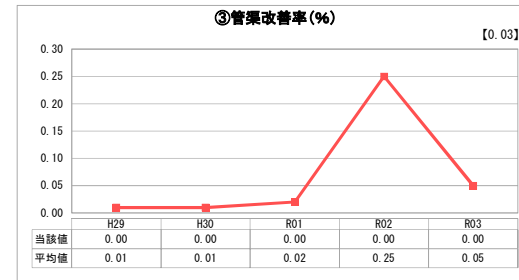
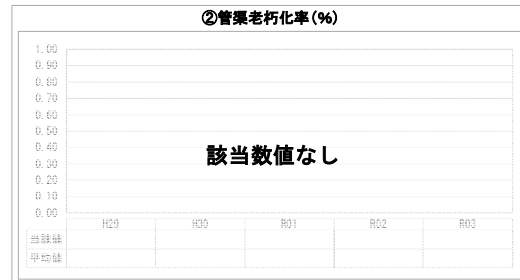
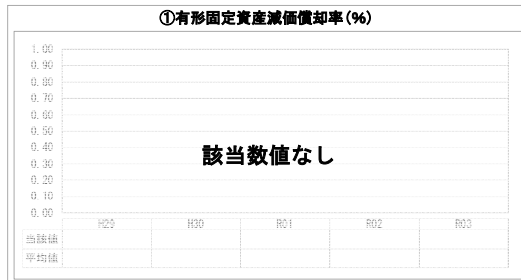
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,875	194.45	91.93
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
472	0.36	1,311.11

分析標
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析標

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は概ね100%となっている。汚水処理原価については平成26年度より減少傾向であったが、平成29年度で増加に転じ、現在も増加傾向である。これは処理場の機器が更新時期を迎えており修繕費が増加したためである。地理的要因により宅地の増加が見込めず、それに伴い処理区内人口の増加が望めない状況であり、施設利用率の増加が見込めない状況である。水洗化率が減少しているが、これは広域水道事業団へ下水道関連業務を依頼するようになったことで、前年度と集計方法が一部変わったことが影響したためと見込まれる。水洗化率向上に関しては整備が完了していることから、水洗化を促進させるためのアクションを重点的に取り組んでいる。

2. 老朽化の状況について

処理場である長炭中部クリーンセンターについては平成6年度から着工しており平成10年度に竣工している。現在は計画的に施設の修繕及び更新をしている状況であるが、今後の維持管理費が増加していくことが予想されるため、更新費等を平準化させ毎年の費用を抑えるためにも長寿命化工事を毎年度、一定程度行っていくこととなる。また、管渠については耐用年数を経過しておらず老朽化が問題となっていないため、今後しばらくの間においては更新費用については発生する見込みがない。

全体総括

今後の見通しについては、処理場の維持管理及び更新の費用が経営に大きく影響を与える要因になると考えている。令和3年度にまんのう町汚水処理施設整備構想を策定し、農業集落排水処理施設と下水道区域の統合について検討を行った。これに基づいて、今後は処理場の更新時期までに公共下水道への接続又は浄化槽への切替を検討しているため、長寿命化工事等による更新費用については統合を視野に入れて実施していくことにより、農業集落排水の経営を持続可能なものとしていく。また、統合時期に合わせて他の汚水処理料金と公平になるよう使用料の見直しを検討している。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。